

# ふるさと野菜をもう一度食卓へ

本県独自の伝統野菜の中から「のらぼう菜」、「岩槻ねぎ」「埼玉青なす」、「紅赤」について品種特性を明らかにし、優良系統を選定しました。さらに、選定した優良系統に適した良品生産技術を確認し、栽培マニュアルを策定しました。



「のらぼう菜」



「岩槻ねぎ」



「埼玉青なす」



「紅赤」

- ①のらぼう菜： 10月に定植すると「比企のらぼう」、「野口のらぼう」は、2月中旬から4月下旬、「ちりめんのらぼう」は、3月下旬から4月下旬に収穫できました。畦幅を70cmにした場合、「比企のらぼう」、「野口のらぼう」は株間45cm、「ちりめんのらぼう」は株間35cmが最も収量が多くなりました。
- ②岩槻ねぎ： 4系統を収集し特性調査を行い、分けつが多く草丈が高いことなどから、さいたま市岩槻区で栽培されてきた現地維持系統を有望系統として選定しました。この系統は、株間10～15cmで、1～2本植えで多収になりました。
- ③埼玉青なす： 2系統（園芸研究所維持系統含む）を収集し、特性調査を行った結果、系統間差はありませんでした。また、着果特性も明らかにしました。
- ④紅赤： 現地（三芳町）3系統を収集し特性調査を行った結果、その内の1系統が収量・品質に優れていました。また、堆肥を施用し深耕することにより、収量が増加しました。  
(園芸研究所 露地野菜担当 TEL 049-285-2206)